

[公財]いわて産業振興センター広報誌

産業情報

INDUSTRY INFORMATION IWATE

いわて

2024/12・2025/1 Vol. 232

★キラリ輝く★

岩手の
企業

洋野町

株式会社長根商店

価値あるきのこを世界から
魅力ある商品を続出する洋野の「きのこ屋」



きのこの駅

きのこの郷

きのこの
駅

各部事業紹介…6・7

令和6年度 いわて産業人材奨学金返還支援制度…8



天然あみたけの加工場。中国から届いた塩蔵のあみたけを塩抜きする。



自社食堂「きのこの駅」。きのこをふんだんに使ったパスタや、ラーメン、鍋等の、料理を提供している。

価値あるきのこを世界から 魅力ある商品を続出する洋野の「きのこ屋」

天然きのこや山菜の加工品などを製造販売する株式会社長根商店。「あみたけ」「ならたけ」「ほんしめじ」「さくらしめじ」「ほうきたけ」といった天然きのこや、希少な「三陸あわびたけ」の栽培など「きのこ屋」として、岩手からきのこの魅力を発信し続ける同社代表取締役社長・長根繁男さんに話を聞いた。

洋野町 株式会社長根商店

冷涼な気候がきのこを育む

岩手県沿岸部最北端の町、洋野町にある株式会社長根商店は、1941年に創業。地元で採れた天然きのこを隣町で販売したのが始まりだ。森林に恵まれた環境の洋野町は、冷たく湿った北東風「やませ」が吹き、夏でも冷涼な気候のため、昔から良質な天然きのこがたくさん採れた。塩漬け加工して

販売するようになると業務は拡大。中央市場で取引されるようになり、全国展開していった。

業績好調の中、当時の社長・長根健一さんは、環境の変化を感じていた。エネルギーが、木から化石燃料にシフトしたことによって山に入る人が少なくなったのだ。山の環境は人が入り、手入れをすることでバランスが保たれている。山に入る機会が減ると、次第に山は荒れ、天然のきのこの収穫量が

減ってしまう。危機感を感じた健一さんは、産地開拓のため中国に渡った。

世界規模での産地開拓に

「父は何度も中国に通い、黒竜江省から雲南省までの山間部を見て天然きのこの産地を探しました」と話すのは現在の代表取締役社長の長根繁男さん。「天然きのこ食文化継承プロジェクト」の一環として、



1「きのこの駅」では、自社商品の販売も行っている。
2旧中野中学校跡地を活かし、三陸あわびたけの栽培工場に。5カ月かけて1つの菌床から1つの三陸あわびたけを収穫する。



世界規模での産地開拓が始まった。現地の協力を得ながら、広い中国の山間部で良質な天然あみたけが採れる地域を見つけた。それは、雲南省の標高3000メートル級の森林地帯だった。1994年には、中国に工場を設立。ヒマラヤ山脈からの雪解け水が流れる川を見下ろす産地で採取された天然あみたけを工場で一時的加工してから、輸入するルートを開拓した。

さらに、産地開拓は他にも成果があった。中国で、日本にはないキノコとの出会いがあったのだ。

長根商店だけのきのこ三陸あわびたけ

中国で出会ったきのこは「阿魏茸(あぎたけ)」という。中国モンゴル自治区の砂漠地帯に自生している阿魏というセリ科の植物に発生するきのこだ。白く、蒸しあわびのような食感で、地元では滋養強壮に良いとされ産後に食べられていた。日本にも広めたいという思いが通じ、国内栽培を開始した。砂漠地帯に自生していたこのキノコ

は、日本での栽培がとても難しく、栽培に四苦八苦。試行錯誤の末に2009年、「三陸あわびたけ」として販売を始めた。現在は、粉末にしたあわびの殻を菌床に加え、温度や湿度を管理しながら栽培している。5カ月かけて一つの菌床からたった1個の三陸あわびたけが収穫できる。希少なきのこだ。

三陸あわびたけは、ECサイトで販売しているほか、「きのこの駅」で味わうことができる。また、県内外のレストランのシェフにも高い評価を得ている。

専門家の意見を反映し 自社商品をブランディング

同社の思いは一貫している。それは、天然きのこを美味しく、安定して届けることだ。そのために、中国への産地開拓や、新しいきのこ栽培など、事業開発に取り組んできた。そして新たに、**専門家派遣事業**を活用し「きのこ栽培所の土壌湿度や温度を遠隔で確認できるシステムの導入」が始まった。これは、きのこ栽培をしたことがない人でも栽培を始めることができる画期的なシステムだ。耕作放棄地を活用し、同社が土壌の温度やシステムを遠隔で管理するので、失敗のリスクが少なく、収穫したきのこは全て買い取る。また、自社の商

品のネーミングやパッケージ、食堂のレイアウトなどにも、専門家の意見を取り入れている。

2018年に発売した「森のレバ刺」は、ネーミングに専門家の意見を反映した。

天然あみたけの水煮が、レバ刺しのような食感であることを活かし、ニンニクとごま油で味わう食べ



3 人気商品「森のレバ刺(右)」、「辛〜いきのこ(中央)」、「まつたけ炊き込みご飯の素(左)」。4 地元の耕作放棄地できのこ栽培を。土の湿度や温度を遠隔でモニタリングし、生産者に指導しながら栽培する。5 きのこの産地や、研究開発の解説をする社長の長根繁男さん。持っているのは三陸あわびたけの模型。

方を提案。自社の主力商品である天然あみたけの新たなブランディングに成功した。

今後は、食品加工の技術を活かしてOEMにも力を入れる同社。「天然きのこ食文化継承プロジェクト」を提唱しながら、食品加工業の技術で更なる飛躍を目指す。



天然あみたけの食感がレバーに似ていることから、食味をレバーに近づけてみよう商品開発に取り組んだ。天然あみたけは、中国雲南省のヒマラヤ山脈にほど近い、標高3,000m級の山岳地帯で収穫する。ここでは標高が高いため虫が少ないことから、良質で大きなきのこを収穫することができる。

きのこは現地工場で洗い、煮沸させた清水でブランピングする。ブランピングとは、茹でる、蒸すなどの加熱処理のことで、酵素の活性化を抑え、きのこの変色や食感の変化、傷みを防ぐ。

その後、冷却し、適度な大きさに切って、塩に漬け込み樽詰めしたものを中国から輸入する。八戸港で荷上げし、植物検疫を受け工場に届く。

塩蔵している天然あみたけを塩抜き加工し「森のレバ刺」が完成。ごま油につけて味わうと、天然あみたけが、まるで牛のレバ刺しのような味になる。



6 中国雲南省、ヒマラヤ山脈の麓。標高3000mの天然あみたけの産地の風景。7 「天然あみたけ」が生えているところ。8 森のレバ刺。

この事業を**活用**しました

食品関連産業活性化支援事業に係る専門家派遣事業

県内の食品製造事業者が抱える自社商品の開発及び販路開拓、生産性向上に関する課題を解決するため、専門家による助言・指導を行っています。商品パッケージに関する相談やレシピ開発、商談会でのパイヤーへの訴求方法、EC販売導入への助言等も可能ですので、関心のある事業者様はお気軽にご相談ください。

相談事例 商品開発に行き詰っている／他社との差別化を明確にしたい／無駄のない作業で生産性を向上させたい…など

お問合せ 産業支援部 地域産業担当 TEL.019-631-3823



中小企業事業再生・再チャレンジ支援事業

経済社会の変化に対応するため主体的に行う新分野展開や業態転換、事業再編等の事業継続に向けた事業再生に向けた取り組みを専門家を派遣することにより支援しています。皆様の事業に併せた専門家派遣が可能となっておりますので、関心のある事業者様はお気軽にご相談下さい。

相談対応業種例 食品製造業、小売業、旅館業、製材業等

お問合せ 総務金融部 金融支援担当 TEL.019-631-3821



代表メッセージ 代表取締役社長 **ながね しげお 長根 繁男** さん

私たちは、地元で採れる天然きのこの魅力を普及したいと思い、始まった会社です。気候変動や山の変化によって天然きのこが収穫できる量も変わってきました。現在は、天然きのこを安定的に提供できるよう、中国のヒマラヤ山脈の麓に一時加工場を設立し、現地に新しい産業を築き、信頼を得ながら、高品質な天然きのこを輸入しています。また、地元の耕作放棄地を活用したきのこ栽培では、高齢者や栽培未経験者でも簡単にキノコ栽培ができるようなシステムを開発しています。これからも「きのこ屋」として、きのこの普及と産業の発展に尽力しま

代表 Profile 1966年生まれ。1989年東北商科専門学校卒。調理師免許を取得後、中国への産地開拓が始まると帰郷。2009年、株式会社長根商店代表取締役社長就任。

企業データ

会社名 株式会社長根商店
メイン工場 岩手県九戸郡洋野町有家9-13-7
電話 0194-67-3660
代表者 長根繁男
従業員 17名
事業内容 天然きのこ山菜加工原料卸、生野菜加工原料卸
URL <https://naganekinoko.com/>

沿革

昭和16年 4月 食品小売業「長根商店」を創業
昭和35年 10月 天然きのこ卸販売開始
昭和62年 4月 「有限会社長根商店」設立
平成元年 3月 業務拡大により加工工場完成(現第一工場)、巾着商品製造のオートメーション導入
平成 6年 中国工場設立、中国産きのこ販売開始
平成10年 5月 「株式会社長根商店」として組織変更
平成16年 10月 味付けきのこ加工専門工場 第二工場 完成、味付け加工品販売開始、カット野菜卸販売開始
平成17年 11月 産直販売部門リニューアルオープン
平成19年 6月 第二工場増築、鍼灸包装機オートメーション移設導入
平成23年 3月 東日本大震災により八木倉庫津波にて全壊
平成23年 9月 旧中野中学校跡地に新倉庫落成、第二工場 レトルト殺菌加工機 新設
平成27年 4月 新第一工場 落成
平成31年 2月 きこの駅オープン

各部事業紹介 事業者様の取組みをサポートします。

産業支援部

「J-クレジット制度活用促進セミナー」の開催

11月25日、ホテルシティプラザ北上において、県内ものづくり企業のGX(グリーントランスフォーメーション)の取組を促進するため、J-クレジット制度の普及啓発に向けたセミナー・個別相談会を開催しました。

制度概要説明と先進企業による事例紹介を聴講した参加者の約半数から、今後の専門家による助言・指導を望む声をいただき、省エネやCO₂削減に対する問題意識の高まりが感じ取られました。

今後、当センターでは、このような要望に対応すべく、東北経済産業局と連携し、専門家によるフォローアップやJ-クレジット制度に関する各種セミナーを継続して開催していく予定ですので、関心のある企業様は担当までご相談ください。



■ お問い合わせ ■

産業人材育成担当 TEL.019-631-3824

産業支援部

第10回いわて希望応援ファンド地域活性化支援事業に係る公募について

当センターでは、地域資源を活用した新たな取組や経営革新等の新事業活動を行う事業者等の支援を通じて地域経済の活性化を図ることを目的とした「いわて希望応援ファンド地域活性化事業」を実施しており、県内の創業・起業家または中小企業等による新たな取組について助成金を交付させていただいております。

公募期間は右記のとおりとなりますので、奮ってご応募のほどお願い申し上げます。

申請書受付期間 令和7年1月6日(月)～1月24日(金)

事業実施期間 交付決定日～令和8年1月末日迄

助成率 1/2～3/4

助成限度額 100万円～300万円

※助成率、助成限度額ともに各応募枠によって異なります。

■ お問い合わせ ■

詳しくは弊センターWebページをご確認ください。
<https://www.joho-iwate.or.jp/fund>



産業支援部

「いわてアパレル企業ビジネスマッチング商談会」の開催

11月14日、東京交通会館において、県内企業と発注企業(アパレルメーカー、商社等)とのビジネスマッチングの機会を創出するため、「いわてアパレル企業ビジネスマッチング商談会」を開催し、県内の受注企業13社、首都圏を中心とした全国各地の発注企業48社が参加しました。

今年度は昨年度を大きく上回る新規発注企業が参加したことから、商談回数や時間を見直し、受注企業が実利のあるより多くの商談をできるように対応しました。

当センターでは、取引の拡大につながるようフォローアップに努めていくほか、個別あっせん、県内縫製工場のデータベースサイト「縫製工場ナビいわて」の運営など受発注取引に繋がる支援も行っておりますので、関心のある企業様は、ご相談ください。



■ お問い合わせ ■

産業人材育成担当 TEL.019-631-3824

産学連携部

「第3回 電池産業参入基礎研修」のご案内

当センターでは、県内企業の自動車の次世代化対応に向けた取引参入・研究開発を支援するため、経済産業省の事業を活用した「次世代自動車チャレンジ支援事業」を実施しております。



自動車の電動化が進む中で、電池産業は今後の拡大が見込まれており、将来的には、中小企業に対する電池関連部品の製造要望増加が予想されます。

この度、電池産業への参入支援を目的とした研修を開催します。オンラインライブ配信のほか、アーカイブ配信もごございますので、ぜひご参加ください。

○第3回 電池産業参入 基礎研修

日時 令和7年2月21日(金) 13:30～15:00

会場 公益財団法人いわて産業振興センター 会議室
(岩手県盛岡市北飯岡2-4-26)

開催方式 現地参集

オンラインライブ配信(ZOOM利用)

アーカイブ配信(期間:2月28日～3月31日)

内容 講演「電池の構造と生産・評価設備」

講師 早稲田大学 理工学術院総合研究所
主任研究員 三栗谷 仁 氏(パナソニックOB)

申込方法 当センターHPよりお申込みください。

■ お問い合わせ ■

産学連携部 TEL.019-631-3825

ものづくり振興部

「ソフトウェア開発企業ビジネスマッチング商談会」の開催

岩手県内のIT関連企業における新規取引拡大や協業の促進を図るため、「ソフトウェア開発企業ビジネスマッチング商談会」を10月9日に盛岡市で開催しました。

首都圏等の発注企業9社(うち新規参加5社)、県内の受注企業9社が参加し、個別面談では県内受注企業が自社の強みや技術、開発実績等についてプレゼンを行い、活発な商談が行われました。

IT関連企業に特化した商談会の開催は、他県で事例がないことから、岩手県独自の取組として積極的にPRを行い、継続したマッチング支援を進めてまいります。



■ お問い合わせ ■

取引支援・産業集積担当 TEL.019-631-3822

産学連携部

「海外医療機器関連展示会への出展のご報告

当センターでは、県内企業が、開発した医療機器等製品や技術を海外に広くPRし、販路を拡大するため、海外展示会への出展を支援しており、今回は2つの展示会に出展いたしました。

1つ目は、東南アジア最大級の医療機器・医療製品展示会MEDICAL FAIR ASIA 2024(9月11日～3日間:シンガポール)で、(株)東北医工が出展しました。

2つ目が世界最大級の医療機器展示会MEDICA 2024(11月11日～4日間:ドイツ)で、(株)アイカムス・ラボ、(株)TOLIMS、セルスペクト(株)が共同出展しました。

両展示会ともに、医療機器メーカー、販売代理店、医療従事者等がブースを訪れ、出展企業は製品の魅力をアピールしました。

具体的なビジネスに発展しそうなお客様との出会いもあり、出展企業からも好評をいただいております。

当センターでは、今後も県内企業の製品を海外にPRするための支援を実施してまいりますので、お気軽にお問い合わせください。



■ お問い合わせ ■

産学連携部 TEL.019-631-3825

ものづくり振興部

「いわて商談会」の開催

岩手県のものづくり産業の集積と高度化に向け、発注企業と受注企業が一堂に会して商談を行う「いわて商談会」を11月7日に北上市で開催しました。

東北・首都圏などを中心とした発注企業105社、県内を中心とした受注企業211社に参加いただきました。受注企業数も昨年より多くの企業に参加いただき、参加企業数は過去2番目の多さとなりました。参加企業各社とも、自社の強みや得意な技術をアピールし、新規取引獲得に向けた商談が行われました。

当センターでは本会における商談をフォローアップするとともに、個別の受発注取引あっせんの対応も行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。



■ お問い合わせ ■

取引支援・産業集積担当 TEL.019-631-3822

令和6年度

いわて産業人材 奨学金返還支援制度

最大
250
万円

いわてで暮らし、
いわてで働くことを希望する方の
奨学金返還を支援します！



岩手県ホームページ

募集人数 80名程度

募集期間 令和6年10月15日(火)～令和7年1月31日(金)

応募対象者

次のいずれにも該当する方を応募対象者とします。

1. 独立行政法人日本学生支援機構の第一種奨学金（無利子）及び第二種奨学金（有利子）の貸与を受けており、将来返還予定又は返還中であること。
2. 応募の時点で、次に掲げるいずれかの方
理工系（工学、理学、農学、薬学、情報学（これらに相当する学部・研究科含む。））の学位又は文系の学位を取得予定又は取得済の方
3. 応募の時点で、次に掲げるいずれかの方

区分	在籍する大学等	申請可能な学年
学生	大学院の修士課程	1・2年生
	6年制大学（薬学部、またはこれに該当する学部のみ）	5・6年生
	大学	3・4年生
	高等専門学校（専攻科を含む）	4・5年生
既卒者	上記の大学等を卒業し、県外で就業している35歳未満の方（募集開始年度の4月1日時点）、又は県内に正規雇用で就業していない35歳未満の方（募集開始年度の4月1日時点）で、募集開始年度中に県内の認定企業において就業し、かつ居住する意志を有すること。	

4. 岩手県の認定を受けた県内の「認定企業」への就業を希望する方
※「認定企業」は県・ものづくり自動車産業振興室HPにて公開しています。
対象分野・業種：岩手県内のものづくり・IT関連企業、建設関連企業、
地域未来投資促進法分野、若者女性活躍関連企業、働きやすい職場関連企業
5. 岩手県内に定住することを希望する方

詳細については上記QRコード(岩手県ホームページ)をご確認下さい。